

第3回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日 時】 令和元年10年16日(水) 9:30~12:00

【出席者】 委員 9名(中山委員、鶴谷委員、牧浦委員、安中委員、東谷委員、梶野委員、岩城委員、柏木委員、西山委員)

担当課

(社会教育課) 5名

(教育総務課) 5名

【欠席者】 委員 5名(美馬委員、服部委員、白銀委員、平塚委員、高井委員)

【傍聴人】 0名

【事務局】 5名(阪本部長、中川理事、俵本課長補佐、日高係長、高野主事)

1. 開会

- ・配付資料確認
- ・委員長あいさつ

2. 議題

(1) 上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

【学校支援事業の研究・協議】、【学校を中心としたコミュニティ網の形成】及び【子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営】

担当課：＜学校支援事業の研究・協議、学校を中心としたコミュニティ網の形成及び子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営について説明＞

牧浦委員：読んでみると3つともほとんど同じことが書かれているので工夫してほしい。また、今後の取組方針について3つの小学校、2つの中学校、幼稚園と全部で6校あるが、ボランティアのほとんどの人が重複して登録している。作業する日が重ならない工夫はできないのか？ボランティアの人たちは、ほとんど顔ぶれは同じだが、重なった場合どちらに行くか話し合いとなるので、もう一つ上のコーディネーターを作って日時の調整ができないかということを経後の取組方針に入れてもらえないか。

担当課：重なる点については、こちらも課題だと考えている。今後については、コーディネーターと連絡を密に強化を図っていきたいと考えている。

牧浦委員：学習支援について、聞いていると敷居が高いと思っている方が多いが具体的にこ

れをどのように解決していくのか、どのように今行っているのかを教えてください。

担当課：ボランティアの方も敷居が高いとおっしゃっている。コーディネーターがボランティアに敷居が高いものだけでなく、簡単なものもあるので参加してもらいたいと呼びかけを行っている。中学生の学習支援といえば難しいと考える方もいるが、実際の内容は家庭科支援でミシンの使い方を一緒に学習するといったものなので、こういったものがあると書面だけで渡すのではなく、言葉で伝えていくことをコーディネーターが行っているので今後を続けていってほしいと考えている。

牧浦委員：パートナーシップ会議でおそらくそういった意見は出ていると思うが、それ以外の敷居があると思う。生徒を相手にするというのもあるかもしれないので、よろしくお願ひしたい。

担当課：今後検討する。

安中委員：学習支援をお願いされたとしても、具体的な内容がわからないと皆無に近いだろう考える。話の持っていく方法、腑に落ちるように持っていかないとだめだと感じている。今後、町のボランティアの数を増やすことを考えていくのなら、他自治体ではポイント制度を実施しているところもあるので、そういったことを検討してもらうことが住民への落としどころではないかひしひしと考えているので伝えたいと思う。

担当課：人材の発掘は大切だと考えるので、コーディネーターと密に連携を取りながら行っていきたいと考える。

梶野委員：現在はボランティア社会であるので、校区ごとにボランティアを地域の自治会や近隣の自治会に声掛けを行い、ボランティアごとの内容を示せば手を出してくれる方もいると思うので自治会のほうで進めてもらう方向をとるのも一つの方法ではないかと考える。

担当課：これからコーディネーター中心に地域の方にも募集をかけていきたいと思う。

副委員長：K P Iのボランティア数について、各学校ごとに記入しているのか、重複した人も入れたトータルの数で示されているのか教えてください。

担当課：ボランティアの登録については、事務局が一括で行っている。登録の際どの学校を希望するか記入してから登録しているので、K P Iに記載されている数は実数になっている。各学校については、総数になっている。

副委員長：ボランティアの各学校ごとの数のバランスは保たれているのか？

担当課：どの学校も不足しているのが現状である。

副委員長：予定値はどのような経緯で考えているのか？

担当課：幼稚園を含め5校1園の形でボランティアに来てもらっているが、各学校でどれくらいボランティアがいるかということは、コーディネーターが要請した場合

ボランティアが行けるようには調整している。

牧浦委員：学校を中心としたコミュニティ網の形成の達成度の部分に記載されているボランティア登録数は、おそらく重複したカウントがされていると思う。

副委員長：量と質のバランスが今後の課題となってくると考える。数が重複しているとなると質を高めていくにはどうすればよいか考えてもらう、次のステージに上がっているという認識を持ってやってもらいたい。最初のステップで登録者数を増やすことが大事なのか、それとも、質的にどこのボランティアが確率的に入ってくれる可能性が高いのかそこから入って、いろいろなものに参加してもらう仕組みにするのかなど、次の一手を検討してもらいたい。

事務局：先ほどの安中委員の意見について事務局から補足の説明をさせてもらいたい。定住促進事業として、昨日職員の中から4班に分けてプレゼンテーションを行った。結論からいうと、ボランティアの部分に関しポイント制度の話があった。健康延伸のためのけんしんGO！ポイントは上牧町で実施しているが、昨日のプレゼンテーションの中でボランティアに対して、今後どのような形で取り組むを行うべきか体制づくりを含めポイント制度について提案があったので、本町としては、ポイント制度を取り組んでいく予定であるということをお返事する。

委員長：1と6と7は、事業としては一つ一つのものであると思うが、今後はこれらを別々にするのかというところで、資料4の改訂に伴う変更等の欄で7番のところから7番に集約と入っているのがよくわからない。今後これらの事業は、別々にいくのか、集約する計画なのか教えてもらいたい。

担当課：1はそのまま継続し、6と7は一括という方向で考えている。6に7を集約して7を消去したいと考えている。

委員長：1について、KPIや取組独自の指標がないがどうするのか？

担当課：KPIについて、検討したいと考えている。

担当課：6の取組内容の名称について、学校を中心としたコミュニティ網の形成及びプログラムの企画・運営にしたいと考えている。

事務局：1の予算計上時期の当初に記載されている2171を2266に訂正してもらった。

【学習支援教室の開催】

担当課：＜学習支援教室の開催について説明＞

牧浦委員：まきっこ塾の課題は記載と同じようにお迎えだけだと考えるが、KPIについて、県平均を目指すとなっているが奈良県は学力的には全国順位で47都道府県中40番代である。県平均に届いていないということは、全国から見るともっと下である。県平均を目指すより、国の平均を目指すに変更してもらえないか。

担当課：KPIについて、このままこれを目標にするのか、もう少しわかりやすいKPI

に変えたほうが良いのかと考えている。

東谷委員：確かに上牧町の教育のレベルはそこまで高くはない。しかし、それより懸念されるのは、二極化が進んでいることである。まったく基礎学力がない、学習への動機づけもわからないという子どもが非常に多い。全体で見ると、県レベル・全国レベルで見ると低いという問題を解消するためにまきっこ塾を開始した経緯がある。先ほどK P Iで全国平均といった提案があったが、まきっこ塾の位置づけとしては、基礎学力の低い子供たちをかき上げしていくことが重要だと考える。K P Iは、学力に基準を置かずにまきっこ塾に参加している小学1年生から3年生のまきっこ塾に参加している割合を入れるのが良いのではないか。

担当課：牧浦委員と東谷委員の意見を参考にして再検討する。

西山委員：まきっこ塾を開催している趣旨を踏まえて、やったことをしっかり分析してもらい、分析を踏まえて次回の総合戦略ではK P Iの設定で委員に説明できるように考えてもらいたい。

副委員長：課題の中に送り迎えの話があるが、まきっこ塾は何時までか？

担当課：14時40分から15時40分の1時間で実施している。学童に行く児童については、送っていく形である。

副委員長：多くの人に参加してもらうにはどうしたら良いか、保護者だけでなくまきっこ塾で教えているボランティアの人からもヒアリングして相互の意見を参考に考えてもらいたい。

【様々な専門講座の開催】

担当課：＜様々な専門講座の開催について説明＞

牧浦委員：どこで行い、どういう方法で行っているのか？

担当課：役場西館3F集会室で土曜日や夏休みに実施した。

牧浦委員：授業の延長で学校の中では規制があってできないのか？

担当課：学校と調整・検討は行うが、学校では年間カリキュラムが決まっているので、予備の時間がとれるのかという問題と休憩時間を割くというのも難しい問題である。ただ、プログラム教育が始まるので学校でもこのような授業は始まっていく。これとの話は別として考えてもらいたい。

委員長：学習支援教室や様々な専門講座の開催は社会教育課で行っているのか？

担当課：そうである。

委員長：これらの事業は学校教育ではないのか？

担当課：学校教育ではなく学校の外で実施している事業だから生涯学習の事業としてとらえている。

委員長：それでは、先ほどの学習支援教室の開催の事業は、学力のついていない子どもの底上げであったので、生涯学習の事業としては受け取りにくい。

担当課：学校でするとなると全校生徒が対象となるので、カリキュラムの中に入れなければならなくなり、学校でできないことを体験させることが目的であるので学校教育とのすみわけはできていると考える。

【スポーツ教室や野外活動教室の開催】

担当課：＜スポーツ教室や野外活動教室の開催について説明＞

牧浦委員：2019年度の取組予定に参加者が減少していると記載されているが、具体的に今後どのようにして参加者を確保していくのか？

担当課：募集チラシに工夫をしたことで今年度は参加者が増加している。

【すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進】

担当課：＜すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進について説明＞

安中委員：会議を行うことだけに力が入っていて、上牧町は人権問題に関して希薄に思う。先日あった人権総会で盲や聾に障がいを持っているかたは参加していたか？

担当課：こちらとしては把握していない。

安中委員：平等や権利は人権の本質である。少なくとも、総会である限りは手話通訳者などを配置してはじめて人権というものになるのではないか？また、点字ブロックがはがれているのに町に何度言ってもかえてもらえない。これが上牧町の現実である。手話言語条例についても町が積極的に行うものである。

担当課：総会や研修会で手話通訳が必要な方に事前に案内する連絡できるようにまずは呼びかけから考えていきたい。

【久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進】

担当課：＜久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進について説明＞

牧浦委員：2の実施結果の2019年度の予定と比べ予算が大きく上がっているが、これは税金が上がるためなのか？また、KPIの最終目標数を3万冊に設定する根拠を教えてください。

担当課：整備基本計画・基本設計において委託料が変更となったので金額を変更している。

事務局：作成時にKPIを設定しているが、意向確認調書に現課からもKPIを検討していると記載されているので3万冊は当初設定したものである。

担当課：KPIについては、再検討する。

【ICTを活用した教育支援】

担当課：＜ICTを活用した教育支援について説明＞

牧浦委員：予算計上と実施の時期を教えてください。

担当課：機器に関しては、計画的に導入している。まずは、各クラスに機器を導入して授業等を進めながら、将来的には子どもに1台ずつと考えている。

牧浦委員：生徒に1台ずつ与えるのはいつからか？

担当課：予算との兼ね合いもあり、具体的にいつかと明記することはできないが、早く配備できるように努力する。

牧浦委員：教員のスキルだけでも早く上げて、機器を導入すればすぐ運用できる体制にしてもらいたい。これを今後の取組方針に入れることは可能か？

担当課：研修については、回数を増やせるように努力はするが、必ず回数を増やせるとは明記しにくい。できる限り研修を行いながら、先生方の授業研究関係で連絡を取り合いながらスキルを上げていきたいと考えている。

東谷委員：KPIについて、研修で達成度まで記した受講カードを作成しどの割合で先生方が達成しているのかということを目標値としてはどうか？

担当課：学校現場と検討確認しながら、進めていきたいと考えている。

委員長：達成度の評価は、Cで良いのか？

担当課：Cで良い。

【子どもの読書活動の推進】

担当課：＜子どもの読書活動の推進について説明＞

牧浦委員：KPIの設定について何かアイデアはないか？

担当課：読書が好きな子どもの割合で県平均を目指すことを考えている。

東谷委員：上牧町は各学校の図書標準は達成されているのか？

担当課：100パーセントという学校はない。毎年100パーセントに近づけられるように予算はつけている。

東谷委員：事業費に記載されていないのはなぜか？また、KPIに学校図書標準を入れるべきである。

担当課：検討しながら進めていきたい。

委員長：今後の取組方針に地域文庫（町立図書館）と記載されているが、教育総務課としてこの事業の一環として進めていくということか？

担当課：町立図書館と話し合いながら進めていきたいと考えている。

【英語教育の充実】及び【体育教育の充実】

担当課：＜英語教育の充実及び体育教育の充実についての説明＞

牧浦委員：今後の取組方針に町民に広く呼びかけると記載されているが、これは外国人のかたを指しているのか、外国語大学に在学や卒業した人たちもさしているのか？

担当課：外国人だけではなく、町民に広くと考えている。

委員長：保育所でも同じようなことをしているのか？

担当課：担当課が違うが、英語については実施していると聞いている。

西山委員：KPIについて、最終目標が60回となっているが方針として、60回を目指すのか、47回のままでいくのかを教えてください。

担当課：60回はかなり厳しい状況である。47回をベースに考えていきたい。

副委員長：なぜ、60回を目指さないのか？

担当課：60回を目指せないのは、カリキュラム上で厳しい状況である。

【通級指導教室の充実】

担当課：＜通級指導教室の充実についての説明＞

副委員長：2019年度の取組予定について、広陵町は抜けるという認識で良いか？

担当課：そうである。

副委員長：広陵町が抜けることで、バランスなどの問題点はないのか？

担当課：広陵町が抜けたことにより児童数は減少したが、令和元年度においては3町すべての学校で通級指導教室を行う生徒が出てきている。現場としては、広陵町は抜けたが、充実した指導をするために工夫しているという報告を受けている。

【県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施】及び【県内優良企業や町内企業における職場体験学習】

担当課：＜県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施及び県内優良企業や町内企業における職場体験学習についての説明＞

西山委員：KPIについて、統合される事業をみると2回となっているが現計画では両方合わせて3回だと思うが、この考え方を教えてほしい。

担当課：外部講師を招聘しての講話、生徒が直接現場へ赴く職業体験、現場に行く前の外部講師によるマナー講習の3つを合わせてKPIと考えている。

西山委員：今の説明でいくと2019年度の予定値はどうなるのか？

担当課：2回を3回に修正する。

西山委員：次期の計画も2回を3回にすることか？

担当課：そのとおりである。

3. その他

次回の検証委員会は11月に行う旨が確認された。

4. 閉会

以上